

中学校外国語

指導のポイント

生徒が「英語に触れる機会」を最大限に確保しましょう。また、コミュニケーションの目的や場面、状況を明確にした言語活動を通じ実際に英語を使う中で気付きを促しながら、資質・能力を育成しましょう。

評価のポイント

評価規準に基づいて、どのような生徒の姿であれば「おおむね満足できる」状況と評価できるのか想定しておきます。その上で、形成的評価により生徒の学習状況を的確に把握し、指導改善を図りながら、総括的評価の場面を迎えることが大切です。

目標に向けて充実した言語活動が行われれば、自ずと評価はついてきます。

1 外国語科における内容のまとめ

【目標】

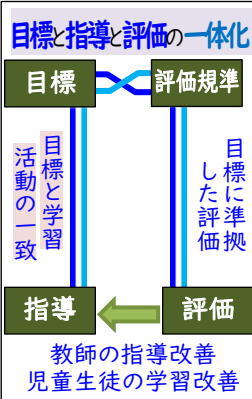
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
聞くこと	アイウ	
読むこと	アイウ	
話すこと〔やり取り〕	アイウ	
話すこと〔発表〕	アイウ	
書くこと	アイウ	

【評価】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞			
読			
話や			
話発			
書			

○教科書の単元は、教科書上の区切り（まとめ）です。
○必ずしも、「指導する内容のまとめ」＝「教科書の単元」とは限りません。
○複数単元を一つにして指導する、しなやかに限らず、長いスパンをかけて指導と評価を行うことが重要です。

2 学習評価の進め方について



STEP1 単元の目標を作成

- 以下を踏まえて作成
 - ・ 学習指導要領の目標や内容
 - ・ 学習指導要領解説等
 - ・ 児童の実態
 - ・ 前単元までの学習状況等

STEP2 単元の評価規準を作成

- STEP 1、2 を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画。
- どのような評価の資料（生徒の反応やパフォーマンスなど）を基に、「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えた、「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりする。

STEP3 「指導と評価の計画」を作成

- STEP3 に沿って観点別学習状況の、形成的評価を行い、**生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。**

授業

STEP4 観点ごとに総括

- 集めた評価の資料や、それに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価（A、B、C）を行う。

3 内容のまとめごとの評価規準

外国語科においては、各単元で取り扱う題材や、言語の特徴や決まりに関する事項（言語材料）、当該単元の中心となる言語活動において設定するコミュニケーションを行う目的や場面、状況、取り扱う話題などに即して設定します。

【例：話すこと〔やり取り〕ウ の場合】

知識・技能

- <知識>
- ・ 「【言語材料】について理解している。」が基本的な形となる。
 - ・ 【言語材料】には、当該単元で扱う言語材料が入る。
 - ・ 言語材料の種類に応じて、「○○の意味や働きを」や「○○の意味や働きを」などの形で当てはめる。
- <技能>
- ・ 「【事柄・話題】について、聞いたり読んだりしたことについて、【内容】を、【言語材料】などを用いて述べ合っている。」が基本的な形となる。
 - ・ 【事柄・話題】には、当該単元の言語活動で扱う、社会的な話題等が入る。

POINT…〈技能〉の評価について

指導する単元で扱う言語材料が提示された状況で、それを使って事実や自分の考え、気持ちなどを話したり書いたり伝え合うことができる状況を評価するのではなく、使用する言語材料の提示がない状況において、既習の言語材料を用いて事実や自分の考えなどを話したり書いたりすることができる技能を身に付けている状況を評価することに留意しましょう。

思考・判断・表現

- ・ 「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について、聞いたり読んだりして、【内容】を、簡単な語句や文を用いて述べ合っている。」が基本的な形となる。

主体的に学習に取り組む態度

- ・ 「【目的等】に応じて、【事柄・話題】について聞いたり読んだりして、【内容】を、簡単な語句や文を用いて述べ合おうとしている。」が基本的な形となる。
- ※ 言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的に捉えている様子については、特定の領域・単元だけではなく、年間を通じて把握する。

4 指導と評価の例

事例 読んだことについて、事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合う
「話すこと[やり取り]」ウ

□1～3課の目標

友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想などをまとめるために、日常的な話題や社会的な話題(野菜の歴史、世界遺産、リサイクルなど)について書かれた文章を読み、読んだことを基に考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合うことができる。

□1～3課の評価規準 ※下記をもとに、単元の目標と評価規準を設定する

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><知識> 言語材料 受け身や現在完了形などの特徴や決まりを理解している。</p> <p><技能> 事柄・話題 日常的な話題や社会的な話題(野菜の歴史、世界遺産、リサイクルなど)について考えたことや感じたこと、その理由などを、受け身や現在完了形などを用いて伝え合う技能を身に付けている。</p>	<p>友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想などをまとめるために、日常的な話題や社会的な話題(野菜の歴史、世界遺産、リサイクルなど)に関して読んだことについて考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合っている。</p>	<p>友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想などをまとめるために、日常的な話題や社会的な話題(野菜の歴史、世界遺産、リサイクルなど)に関して読んだことについて考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合おうとしている。</p>
英語使用の正確さ	内容面の適切さ	思判表と一体的に評価

関係する領域別目標

「話すこと[やり取り]」

ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。

POINT

この例示のように、複数単元を通じてある領域の資質・能力を育成することも考えられます。

POINT

形成的評価により、生徒の学習状況を把握し、生徒が「できる」ように指導改善を図ることが重要です。

POINT

cの状況の生徒にどのような手立てを講じるかが重要です。

□指導と評価の計画(1課のみ抜粋;2～3課も同様)

時	■ねらい 【評価場面】 ◎:評価規準 <評価方法>	
1	■単元の目標を理解する。 ■教科書の対話文を読み、引用するなどしながら考えたことや感じたことなどを伝え合う。	記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間行う。活動させているだけにしないよう十分注意する。
2	■対話文を読み、引用するなどしながら、考えたことや感じたことなどを伝え合う。	
3	■教科書の対話文(第1時で読んだ対話文の続き)を読み、引用するなどしながら考えたことや感じたことなどを伝え合う。	
4	■対話文を読み、引用するなどしながら、考えたことや感じたことを伝え合う。	
5	■教科書の対話文とレポート(第3時で読んだ対話文の続き)を読み、引用するなどしながら考えたことや感じたことなどを伝え合う。	
6	■対話文や文章を読み、引用するなどしながら、考えたことや感じたことなどを伝え合う。	
7	【ピクチャー・カードを使い、受け身や現在完了形などを正しく用いながら、教師やALTに教科書の全ての本文内容について説明する】 ◎[知・技]自分の考えたことや感じたこと、その理由などを、学習してきた文を正しく用いて伝え合う。<観察>	
8	【初見の文章を読み、引用するなどしながら考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合う。】 ◎[知・技]自分の考えたことや感じたこと、その理由などを、学習してきた文を正しく用いて伝え合う。<観察> ◎[思・判・表]初見の文章を読み、引用するなどしながら考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合っている。<観察> ◎[態]初見の文章を読み、引用するなどしながら考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合おうとしている。 <観察・振り返りの記述内容>	

この後、2～3課を経て、パフォーマンステストを実施し、[知・技]、[思・判・表]、[態]を評価する。

1～3課におけるA男の評価「話すこと[やり取り]」「知識・技能」:A 「思考・判断・表現」:B 「主体的に学習に取り組む態度」:B

□学期における評価(例)

学習が進むにつれ向上が見られることを評価した例

単元・領域→	1課	2課	3課	PT	話や	他領域	学期
知技	b	b	b	a	A	(A~C)	(A~C)
思判表	c	c	b	b	B	(A~C)	(A~C)
態	c	c	b	b	B	(A~C)	(A~C)

※PT=パフォーマンス・テスト

※「他領域」、「学期」の総括的評価についての詳細は割愛

新学習指導要領、新しい教科書においては、「帰納的な指導」が重視されます。その具体については、以下の動画で確認できます。

「文部科学省/mextchannel-Youtube」

日本の外国語教育はこう変わる! Q(約21分)

中学校の外国語教育はこう変わる!前編 Q(約11分)

中学校の外国語教育はこう変わる!後編 Q(約22分)

単元・領域→	1課	2課	3課	PT	話や	他領域	学期
知技	b	a	b	b	B	(A~C)	(A~C)
思判表	c	b	b	b	B	(A~C)	(A~C)
態	c	b	b	b	B	(A~C)	(A~C)

3課を通じて概ねbであることから、総じてBと評価した例

評価の方法、時期、基準等については校内の担当教師間において確認・改善することが重要です。